

# やまぐちっ子学力向上だより

第 115 号 R3.9.16  
山口県教育庁義務教育課

## 学力向上の基盤となる読解力などの言語能力等の育成

今年度から2年間、防府市立華浦小学校において文部科学省の「学力向上のための基盤づくりに関する調査研究」を受託し、読解力などの言語能力等の育成に取り組んでいます。

この研究は、生涯学び続けるために必要な資質・能力を子どもたちに身に付けさせるためには、子どもたちの学力向上のための基盤づくりを義務教育段階の早い時期から行うことが求められていることから、学力向上のためにどのような取組が有効かについて調査分析及び実践研究を行うものです。

華浦小学校では、「読解力向上に向けたカリキュラム・マネジメント」、「ICTの活用」、「コミュニティ・スクールの仕組みの活用」の3本柱を軸に取組を進めています。

レディネスを把握するために、タブレット端末を用いて測定するリーディングスキルテスト（以下、RST）を7月に実施しました。

RSTとは、国立情報学研究所の新井紀子教授が中心となって開発した基礎的読解力を最先端のテスト理論を用いて診断する画期的なテストです。係り受け解析（DEP）等の6分野で構成されており、それぞれの読解力を鍛えるのに有効な手立てが、以下の資料中の□で囲まれた部分になります。

教科書がきちんと読めるようになると、学力は確実に上がるとのことです。すべての科目の基盤となる読解力の向上に向けて、以下の手立てを積極的に御活用ください。



【RSTに取り組んでいる様子】

### 係り受け解析(DEP)・・・「何が何をどうした」

音読(教科書や新聞、イラストのない文章)  
視写(時間を決めて文章を書き写すこと)  
熟読(文のイメージが頭に浮かぶまで読む)  
読む習慣(新聞や辞典、インターネット)

### 推論(INF)・・・「一を聞いて十を知る」ために必須の能力

「すらすら読める」文章を熟読する  
新しいことを学ぶとき、そこからどのようなことが言えるか、考えたりノートに書いてみたりする  
論理的に考える力を身に付ける

### イメージ同定(REP)・・・文を図等でイメージ

文と図表の対応(文章で表現されている内容を、図・表・グラフ等で表現する)  
社会や理科の教科書、算数の問題文を音読したときに、詳しいイメージが頭に浮かぶ

### 照応解決(ANA)・・・省略された名詞句を正しく補完

下線を引く(「それ」「これ」という指示語が何を指しているのか考える)  
読む習慣付け(「意味がわかった」と感じるまで新聞、辞典、教科書を読む)

### 同義文判定(PARA)・・・別の言葉で言い換え

ひとつの文を別の言葉で言い換える練習  
意味がわかるまでじっくり読む(あわてない)  
より注意深く、意識しながら読む

### 具体的同定(辞書・理数)(INST) ～を・・・といいます

定義文を正確に読む  
(「～のことを〇〇といいます」)  
辞書を使って新しい言葉を身に付ける

次の文章中に出てくる下線部のそれらが指すものは何でしょうか。

近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一は、27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟で、後の水戸藩主となる徳川昭武に随行し、パリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞する機会を得たことにより、それらの社会の内情に広く通ずることができました。明治維新となり欧州から帰国した栄一は、その後明治政府に招かれ、大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わることとなります。

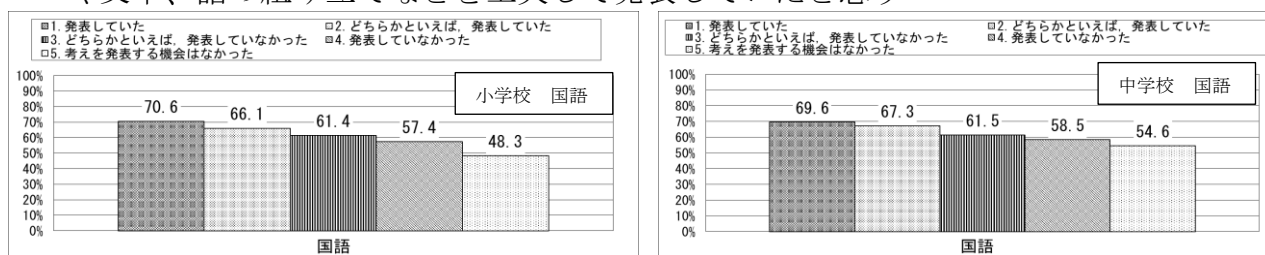
子どもたちの読解があやふやになる原因として、なじみのない語彙や並列的な表現が使われていること、文そのものが長いことが挙げられます。200字程度でも文をきちんと読み取ることには負荷がかかり、実は多くの子どもが教科書を正確に読めていないことがRSTによって明らかになっています。読解力を向上させるために取り組むとよいとされている活動を3点お示ししますので参考にしてください。

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 1. <b>音読を日常化させる</b>        | 国語と英語以外の教科書を音読・精読   |
| 2. <b>記述式の答え合わせを自力でさせる</b> | 正答例と自分の答えを照らし合わせ、判断 |
| 3. <b>学校司書や地域の力を借りる</b>    | 正確に読むことで広がる世界のよさを体験 |

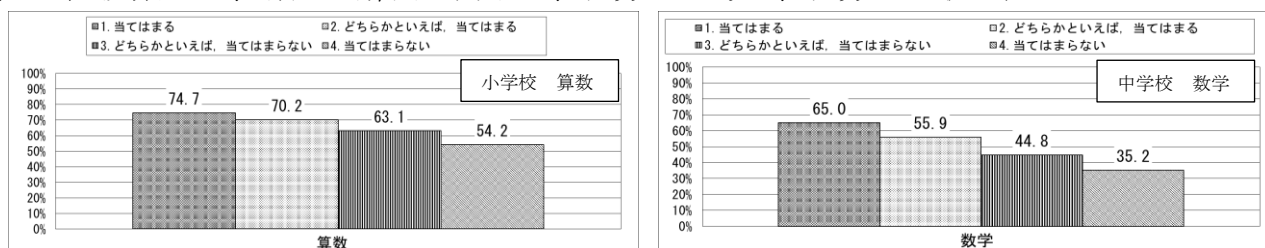
## 質問紙調査から見てきた学力向上の糸口

児童生徒質問紙調査において、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒との間に、全国学力・学習状況調査の正答率に大きな差が開いている項目がありました。例えば以下の2つです。

(32) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う



(33) 授業では、課題の解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいた



これらの結果から、主体性を発揮する学習過程や、自分の考えを論理的に組み立て、相手に伝わるように発表する学習場を設定することが重要であると言えます。各学校においても今一度質問紙調査を確認し、学力向上の糸口を見つけていただきたいと思います。